

No.175

2015.
3.1

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

10周年を迎えて

堀 由紀子 (アクア・トト ぎふ 館長)



平成26年7月、おかげさまで世界淡水魚園水族館「アクア・トト ぎふ」は開館10周年を迎えることができました。平成16年7月14日快晴の空の下、みなさまに見守られ

ながらオープニングセレモニーでのテープカットやくす玉割りをした日のことを、昨日のこのように思い出します。幼少時代に過ごした岐阜県の水族館の館長を勤めさせていただくことへの感謝の気持ちと、またそれに伴う重責を感じ懸命に取り組んでまいりました。

「清流の国」岐阜県は、山や川の山紫水明な自然に恵まれ、多種多様な生き物たちを育てています。その素晴らしさをご紹介するフィールドミュージアムとして、長良川をはじめとする木曽三川の源流から河口までを、そこにくらす生物だけでなく、植物や水の流れ、岩や石、砂などといった自然環境を細部にまでこだわり再現しており、加えてアジア、アフリカ、南米の巨大河川の環境と育まれている魅力あふれる生き物たちも紹介しています。これまでに500万人近いお客様にご来訪していただくことができ、ご愛顧頂いております岐阜県民の皆様方、多くのご来館者に心から感謝を申し上げるとともに、開館当初より博物館活動を進めるに当たり、多くの方々と交流しご協力を賜りましたこと、心より深謝いたしております。

また、一昨年11月「第61回全国博物館大会」が岐阜市で開催され、400名あまりの参加で大盛況でありました。初日基調講演では「博物館の父」と呼ばれる棚橋源太郎（1869～

1961）の生誕地が岐阜市柳ヶ瀬であることから矢島国雄明治大学教授より「棚橋源太郎のみた夢」と題して業績が回顧されました。

明治、大正、昭和と長きにわたり博物館の理論的、組織的指導者として位置づけられ、教育的役割の博物館として学校教育と社会教育、両面に広がりを持っていました。欧米留学の経験を生かし国立科学博物館の前身、東京教育博物館の館長に就任、又多様な役職に就かれましたが昭和3年には日本博物館協会の創設と経営。「博物館研究」の発行も行いました。生涯にわたり教育機会の必要性、学芸研究機能の重要性を唱え、一方、生態展示やハンズオン展示を用いるなど斬新な方法を採用しました。自然科学の学習が展開される博物館として職員の専門性も含め実物教育の重要性を説く偉大な業績が脈々と披露され大変感動いたしました。

さて、今、地球規模で野生生物が激減しています。絶滅の危機に瀕している種も少なくありません。自然豊かな岐阜県も例外ではありません。在来水生生物は私たち人間の社会活動による影響を受け、減少の一途をたどっています。平成22年に改訂された岐阜県レッドデータブックでは、31種もの魚類が絶滅危惧にあることを伝えています。これらの現状を一人でも多くの人々に正しくお伝えできるよう、棚橋源太郎先生の先駆者としての尊い教育理念を学びつつ、今後も普及啓発に力を入れて取り組んでいくとともに、生涯教育の場として、お子さまからお年寄りの方まであらゆる世代の方々に楽しく学び夢のある水族館として今一層、努めてまいります。

平成26年度岐阜県博物館協会通常総会報告

期 日：平成26年 5 月28日(水)

会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール

出席者：99名（委任状を含む）

【会議の概要】

平成26年度岐阜県博物館協会通常総会が、平成26年 5 月28日(水)午後 1 時から、岐阜県博物館ハイビジョンホールで開催されました。総会では、若宮会長の挨拶の後、平成26年度の博物館関係功労者として、

半原版画館 館長 糸魚川淳二 様が、表彰を受けられました。
来賓を代表して、岐阜県教育委員会 教育長 松川禮子様よりご祝辞をいただきました。



来賓祝辞 岐阜県教育長 松川禮子 様

議事に先立ち、新たに加わった会員

- ・OKBギャラリーおおがき
- ・小泉子ども美術館
- ・瑞浪芸術館
- ・古銭史料館
- ・藤村記念館

が紹介されました。

議案は、慎重に審議され、平成25年度事業報告及び収支決算の承認、平成26年度事業計画及び収支予算の決定、役員改選等については、いずれも原案のとおり、可決されました。

平成26年度の主な事業計画は次のとおりです。

- ・県民文化講演会の開催
- ・研修・研究会の開催
- ・公開講座の開催
- ・機関紙の発行
- ・ホームページの作成
- ・地域博物館等活性化支援事業の推進
- ・岐阜県博物館協会創立50周年事業の準備



若宮会長より表彰状を授与される糸魚川淳二氏

その後、ぎふ東濃アートツーリズム事業について、事務局の東濃振興局上出課長補佐から報告がありました。実施事業として

- (1) スタンプラリー事業
- (2) 絵てがみコンテスト事業
- (3) 情報発信・連携事業

の3点にわたり紹介がありました。

平成26年度博物館関係功労者表彰

半原版画館 館長 糸魚川淳二

博物館とわたし

博物館のことに直接係ることになったのは、1973年、瑞浪市化石博物館の設立です。中央自動車道建設によって得られた多くの化石を材料として、その頃日本には少なかった自然史の博物館をつくるのが計画されたのです。地層と化石がよく調べられていて、1800万年前ころの古地理や古環境が復元されていて、展示のよい資料になりました。

このことで、博物館を創ることの面白さを十分に味わうことが出来、興味が湧きました。本来の仕事、地層や化石の研究のほか、新しい別の道が開けました。

そのあと、ヨーロッパに1年間滞在する機会を得て、イギリス・フランスをはじめ、各国の多くの博物館を見て歩くことが出来ました。こんなにも、いろいろな館があるかと驚き、古いものから新しいものまで、「もの」のもつ楽しさ・面白さを味わい、益々関心を深めました。帰国してからはそんな見聞を新聞や雑誌に掲載し、本にもまとめました。

その頃、日本でも博物館を創る動きが活発になり、いくつかの博物館のお手伝いをいたしました。

いろいろなケースがあり、面白かったのを覚えています。中でも、豊橋市自然史博物館では初めから終りまで、「博物館づくり」にかかわり、素人ながら展示の細かいことから運用まで、学ぶことが出来ました。

その後もさまざまな形で博物館に関係しましたが、興味があつたのはやはり専門の、自然史系の館でした。エコミュージアムにも興味を持ちました。原点であるフランスのル・クルゾ・モンソーのエコミュージアムを見に行つたことは懐かしい思い出の一つです。

小さな美術館「半原版画館」をつくつたのも、博物館の大事な要素、「もの」(わたしの場合明治時代の石版画)を集めたからでした。

よい機会に恵まれ、多くの人々に支えられて、楽しく活動できました。今回の岐阜県博物館協会初め、博物館に関していくつかの表彰を受けたことは思っても見なかったことで、うれしいことであり、感謝しています。



半原版画館



半原版画館展示室

岐阜県博物館協会 県民文化講演会

演 題：「円空の生涯」
期 日：平成26年 5 月28日(水)
会 場：岐阜県博物館 ハイビジョンホール
講 師：円空学会顧問 長谷川 公茂 氏
参加者：130名



1971年に円空学会を設立し、81年から同学会理事長を、2013年から同学会顧問を務める、円空研究の先駆者の長谷川公茂氏による講演会が開催されました。

最初に円空仏のスライドの丁寧な解説のあと、円空の生涯をたどっていただきました。円空は、寛永9年(1632)に美濃国に生まれ、寛文年間に本格的な造願活動を始めました。元禄8年(1695)に関市池尻の長良川畔で入定する64年間に10万体を超える造仏をおこないました。北海道から畿内地域にいたる全国行脚の姿を各地に残る円空仏と照らし合わせることで、跡付けていかれました。特に、美濃における1010ヶ所に及ぶ造願活動から、円空の郷土への思いを読み取ることができると語るとともに、円空の思想を知るためには円空の和歌をひも解くことが大切であることを指摘されました。

また、昭和30年代から60年にわたり地道に積み重ねてこられた円空研究の道のりを振り返っておられました。80歳のご高齢であるにも関わらず、1時間30分以上にわたり資料に目を落とすことなく、熱く語られる姿は、聴講した130名の方々に感銘を与えた講演会でした。

(機関紙委員 岐阜県博物館 山田昭彦)

第84回会員研修会 ボランティアの可能性 ー県外の事例に学ぶー

期 日：平成26年 3 月13日(木)
会 場：岐阜市科学館
参加者：24名

ボランティアをテーマに、県外で長年活発に活動している団体、最近注目されている団体の方を講師にお招きして、ボランティアの可能性についてお話していただきました。



三重県立美術館ボランティア「櫂の会」会長 内田 壽子 氏、NPO法人「大阪自然史センター」普及教育事業担当 米澤 里美氏から、それぞれの組織についてお話していただきました。

三重県立美術館の「櫂の会」は、美術館が開館となる直前に発足し、すでに30年以上の歩みがあります。自主運営を行っているところが特徴で、ボランティアの方への規則やノルマは割としっかりと設定されているそうです。

大阪自然史センターのボランティア組織は、友の会から発展してできました。活動は多岐にわたり、ショップ経営も行っています。活動理念に、人々に自然を楽しく学んでもらいながら自然環境への意識を新たにしてもらうことを掲げています。ボランティアの方への規則やノルマは割とゆるく設定されているそうです。博物館との連携を越えて、別の組織からの事業委託も受けているそうです。成功例として、骨格標本作りの「なにわホネホネ団」があります。

(岐阜市科学館 都築幸夫)

平成26年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会 東海支部総会に出席して

期 日：平成26年 7月30日（水）

会 場：山梨県立博物館 生涯学習室

参加者：山梨、神奈川、岐阜、静岡、愛知の5県から40名（その他・事務局3名）

日本博物館協会東海支部総会は、山梨県笛吹市の山梨県立博物館（以下、山梨県博）で開催されました。山梨県博は、「かいじあむ」の愛称で、「山梨の自然と人」をテーマにした常設展示や郷土に関する図書が閲覧できる「資料閲覧室」など、市民に根差した博物館です。シンボルツリーのヤマナシの木や約4万本の草花が育つ「かいじあむの庭」の豊かな自然と融和した建物は、地域の人たちの憩いの場ともなっています。

開会に当たり、東海地区博物館連絡協議会会長代理山梨県立博物館小澤賢蔵副館長よりご挨拶を頂きました。また、来賓祝辞として、公益財団法人日本博物館協会半田昌之専務理事に頂きました。引き続き、半田専務理事より日本博物館協会主要事業についての説明がありました。

次に議題として平成26年度の理事及び監事の選任、平成25年度事業報告・決算報告、平成26年度事業計画・予算案が決議されました。また、来年度の開催県として、神奈川県が担当県であり、神奈川県立博物館薄井和男館長が挨拶されました。

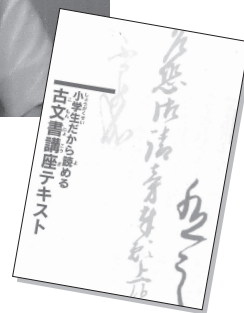
その後約1時間、山梨県博を一同で観覧させていただきました。企画展示室では企画展「幽霊・妖怪画大全集」が開催されており、夏休みを利用して「かいじあむワークシート」に取り組む親子の姿が多く見られました。福岡市博物館蔵の同展は名古屋市博物館でも開催された巡回展ですが、山梨に伝わる幽霊・妖怪文化を紹介するシンボル展「やまなしの幽霊・妖怪」を併設することで、特色ある展示となっているところが印象的でした。

常設展示では、山や川で営まれてきた人々の暮らしの歴史的変遷が史料やパネル、ジオラマで紹介されています。また、江戸時代の甲府城下町での商人や農民の暮らしを疑似体験できる「歴史の体験工房」や、山梨で起きた自然災害や戦争についての映像を通して考える「共生する社会」の各コーナーがあり、山梨の今後について考えるヒントが随所に仕掛けられていました。

最後に、東京女子大学現代教養学部高橋修准教授より「小学生向け古文書解読講座 開発と実践」と題してご講演をいただきました。高橋先生は、近世古文書学を専攻され、昨年まで山梨県博で学芸員を務めました。ご講演では、「小学生だから読める古文書」という視点での教育プログラムの開発や、博物館と教育機関、また外部機関との連携について述べられました。出席者も実際に古文書読解講座のテキストの問題に挑戦しながら、地域の歴史を身近に感じられる古文書の大切さや講座の進め方などについて伺いました。



講師 高橋修 氏



そして、「国際化 global」と「地域 local」をあわせた「glocal」の拠点として、博物館が果たすべき役割、そして各館の知的資源の価値を積極的に情報発信していくことの重要性について語っていただきました。

今回、会議が開催された笛吹市を訪れるにあたり、800年の歴史をもつ石和の徒歩鶴について調査、視察することも重要な目的だったことを追記します。シンボル展で展示された遠妙寺所蔵の鶴飼に関する資料について、担当の学芸員の方とも情報交換したり、また地元の若者による徒歩鶴の実演を観覧したり、大変実りある来甲となりましたことを、主催者の皆さまに感謝申し上げます。

（長良川うかいミュージアム 近藤智美）

第140回公開講座 サマーサイエンススクール

期 日：平成26年5月18日(日)
5月25日(日)

会 場：サイエンスワールドほか
参加者：44人

昔の子供たちにとって夏の定番であった昆虫採集と標本作りを通じて、自然に親しみ、また興味と関心を持ってもらうための講座を実施しました。

5月18日は、土岐市在住の今井敏美さんを講師にお迎えして、午前中に瑞浪市日吉町でチョウの採集を行いました。補虫網や三角架は当館から貸し出し、参加者は1人で3～5匹を採集できました。



午後からはサイエンスワールドで、採集したチョウの展翅を行いました。初めての子供さんばかりでしたが、親子で協力しながら展翅版の上に羽をまっすぐに伸ばしていました。

5月25日は、午前中に標本を標本箱に収め、名前を調べたり、ラベルに採集場所や日時、名前を書いたりして、バランスよく配置していききました。

出来上がると、親子でとても喜んでいた姿が印象的でした。身近な虫や自然に興味を持ち、夏休みには自分で昆虫採集に挑戦してくれることを期待しています。

(サイエンスワールド 渡邊寛治)

館・園紹介 No.155

岐阜市長良川鵜飼伝承館 (長良川うかいミュージアム)

長良川の鵜飼を「護り・伝え・広める」場

〒502-0071 岐阜県岐阜市長良51番地 2

TEL : 058-210-1555

H P : <http://ukaimuseum.jp/>

岐阜市が誇る文化資産“長良川の鵜飼”は1,300年以上の歴史があり、長良川の鵜飼を「護り・伝え・広める」場として、「長良川うかいミュージアム」は平成24年8月に開館しました。

鵜飼の歴史や迫力を映像で伝えるガイダンスシアターや、実際の鵜飼漁で使われる用具などの実物資料の展示、クイズやインタラクティブな参加型の展示、鵜の生態展示などによって、鵜飼の魅力に触れることができます。また、特別展示室では年数回、長良川鵜飼に関するさまざまなテーマで展示内容を入れ替え、国指定の重要有形民俗文化財を中心に、特別展示を常時開催しています。また、景観ラウンジや屋外施設「四阿（あずまや）」からは金華山・岐阜城・長良川を一望できます。

年間を通じて鵜飼や岐阜の文化に触れられる体験教室や市民講座を実施しています。鵜飼開催期間中（5月11日～10月15日）には、鵜飼にゆかりのある施設などを見学し鵜飼の魅力を感じていただく周遊ツアーの開催、また鵜飼のオフシーズンには、宮内庁式部職鵜匠による鵜飼の実演や説明を実施し、鵜飼シーズンだけでなく、通年型の観光拠点としての役割を担っています。



(長良川うかいミュージアム 近藤智美)